

心とする帝釋地方の一小區域に其餘景を止むるに過ぎざるの現況に照せば、此下帝釋峽は徒に區外の勝景にして放置すべきにあらず、一日も早く國家の公認により名勝區に編入し帝釋峽石灰岩峽谷自然美の眞價を周知せしめ、此景觀の保存を望むこと切なり。

參考圖書

參謀本部五萬分の一地形圖（庄原新見上下油木圖幅）地質調査所地質圖（庄原圖幅及同説明書）
山陽中央水電株式會社の堰堤設計圖、第一第二導水橋梁圖
辻村太郎、地形學、日本地形誌、新考地形學
廣島縣、史蹟名勝天然紀念物調査報告（第一、二輯）
吉野益見、名勝帝釋峽（地理教材研究）（第五、七輯）
同 帝釋臺カルスト（地學雜誌第五〇一、五〇二、五〇四號）

此稿を草し得しは、全く縣岡太課長吉田屬の厚意と神石郡久岡宮野兩村長横山赤木横溝三氏實地指導との賜なり。茲に深く感謝の意を表す。

新著紹介

○島と漁村

漁村社會經濟調査 四六版一三九頁

東京市芝協調會發行 四月 定價四〇錢
本書は山形縣下の唯一の島、飽海郡飛島を漁村として見た記録で、協調會囑託宮本倫彦氏の執筆にかゝるものである。沿革的、經濟的、社會的の三部に分けて觀察し考究を加へてある。之を通覽すると勝浦、浦、法木の大字に分かれた飛島村がいかに漁業といふ一つの生業の爲めに大字の間に隔りが出来てゐるかといふことが窺はれる。生活に關する多くの記録と現狀とが記述されてゐるから人文地理學の材料とするに足りる。（S）

○壹岐島民俗誌

山口麻太郎著 一誠社出版 定價二圓

四六版二八六頁の小冊子ではあるが著者は土着の愛郷心に燃えて、この島のあらゆる土俗を詳密に解説されたものである。蓋し東西約三里、南北四里面積八方里、現住人口四萬二千、一郡十二ヶ村の蕞爾たる壹岐こそは、日韓交通の要路にあつて魏史に明にその大さを記したところであるが、大陸文化の最初の波をうけて、後から後から渡つてきた優秀な文化は多くは素通をしたらしい、従つてこの民俗誌をみると丹波や飛騨の山の中の生活と格段の差がないといふことを教えられる。麴一升が玄米一升、小豆一升も玄米一升、黒糖一斤が麥一升（これは餉からの轉化）などいふ物々交換の遺風が、この島にあると同時に、それは筆者幼時の丹波の麴屋を思ひ起さしめる。本書に記された四阿藁葺の民屋の間取といふものが、中國から東山道へかけて全國的に共通してゐるのをおみ

ても日本の基礎をなす民俗習慣の遼遠さをしることが出来る。家のニワに大極小極、さてはニワウシがあり、庭クドの外にクドがあること、ナンドからザシキといった四間取の民屋は、恐らく開闢の初からの最古の文化の所産であつたであらう「ミノメノカキ」といふ三巾物の前垂は山城大原女の前垂と同じ衣裳であつてミノメの垣といふ意味であるらしい。壹岐の一般民家の食物及料理なども、中國や北陸との間に變化はない。田畑の神をまつるための玉串代用に、マサゴといふものをつる、藁苞の中に漬の小石をいれるのであつて、其形式は擬人的のものである、丁度それと同じ藁苞に小石をいれ、それを二つ合せて一つにしたものを近江の東部では一月四日山神にさし上げる。この滋賀縣の山の神は單に山のみ神でなくて、田の神であるから、祭に際して「五穀豐饒二十四のタナツモノ、皆シゲレ」と祝詞を申すのである、予はこれがいづ頃からか、山の神の行事となつたかを疑つてゐたのであるが本書をみることによつて壹岐では六月二十九日のナギシに祭る、その祭る場所はミト田又はカミ田に於てすると讀んで、ゆくりなくも、天之安田、天之平田、天のクチトヒ田で、皇祖が田をつくられた過去を追想し、日本の農民生活や農家の原流が開國の昔から悠久なるを感じさせられた、蓋し近江の山神や、壹岐の田神こそ日本最初の神々であつて、サカマキ、クシサシを天津罪といつて、それを人民の重大罪惡と考へた時代からの日本神であらせられるのではないか。壹岐で

面白いのは小崎蟹と稱する一段身柄の低い純粹漁民の生活である。アワビの貝をとつて、これを皇祖にさし上げた民俗の名残であり、魏史に倭國のことを記して魚蛤が多く人民が水に沈むでこれを描ふことをのべた一派の生業者の名残であらう。しかし魏の使者がきたとき、海岸には蟹もゐたが陸上には既に田や畑の農業を營み、四阿の民屋に住んでゐて、田神や山神をまつるために、藁苞をつくる吾等の祖先は充滿してゐたものと斷ぜざるを得ない、最後に本書には壹岐の島人の徳川時代に交通した日本各國の港の表が出てゐて、何物がいかに取扱はれたかをのべてある、海島としての中繼貿易や、或は密貿易をやる大船の出入の面影をしのばしめるのが何よりの喜びであらねばならぬ。予はかうした面白い讀物を提供された著者に深甚の感謝をさしげる一人である。(藤田)

雜 報

○紀伊南部町堺の洪積層と第三紀層との不整合の露出に就て

紀伊日高郡南部町堺の洪積層及び其の化石は嘗て中村、黒田兩先生により報告されたが、當時は洪積層と基磐の第三紀層との不整合は化石産地では直接觀察出来なかつた。筆者は本年一月南部町堺並に西牟婁郡西富田村安久川の洪積世具化石の採集を行つたが其の際堺の化石産地に於て洪積層と第三紀層との不整合を直接觀察することが出